保育所だより

令和５年１１月２１日
第　９　号
久　住　保　育　所

　早いもので今年も残りわずかとなりました。
何かと慌ただしくなりますが気持ちにゆとりをもち一年のまとめを行い子どもたちの成長を喜びたいと思います。
　年末年始、外出する機会もあるかと思います。
交通事故等に十分、気を付けてお過ごしください。
決して気を緩めることなく感染症対策も忘れずに。
　発表会も間近となりました。４年ぶりの通常開催となります。お子さんの一段と成長したかわいい姿を心に残していただければ幸いです。当日までの体調管理のほどよろしくお願いいたします。

＜１２月の行事予定＞
２日（土）発表会
１２日（火）クラス懇談会
（ちゅうりっぷ組）
１３日（水）クラス懇談会
（もも・さくら組）
１４日（木）弁当の日
身体測定
２０日（水）身体測定
２１日（木）クリスマス会
２２日（金）避難訓練
２８日（木）保育納め

＜保育所の年末年始の休み＞
１２月２９日（金）～１月３日（水）

発表会予行練習（１１月２９日）
当日（１２月２日）について
両日とも開場時間は８：３０です。
お子さんの集合時間は
８：３０～８：４０です。

発表会の開会時間は９：００です。
詳細は案内文書を確認してください。

１１月７日の誕生会の献立
★ハヤシライス
★切り干し大根のサラダ
★野菜スープ　★トマト
★りんご
★スイートポテト

竹田中学校３年生が家庭科学習において保育体験実習を行いました。手作りおもちゃ等をもちより、ふれあいあそび等を楽しみました。保育所の子どもたちは前日から大はしゃぎしていました。子どもたちへの声かけや思いやりのある行動に私たちも穏やかな気持ちになりました。中学生がこの保育体験学習を心待ちにして臨んできてくれたことや久しぶりに会う卒園児の姿に、幼児期の大切な時期に携われることへの喜びとこの仕事への励みを私たち職員が改めて感じる機会となりました。

「怒っちゃだめだ」から「怒らなくても大丈夫」に②は裏面に

前号からの続きです

正解のない子どもへの関わりに対して「ぼくが気をつけたいこと」と題して、
気づきや考え方をSNSで発信している　保育士　きしもと　たかひろ　さんの
インタビューより

～テーマ　「怒っちゃだめだ」から「怒らなくても大丈夫」に～　②

ここでは、僕が大切にしている考え方を紹介します。日々の生活の中で、全く怒らないで過ごすのは難しいけれど、少し落ち着いて話ができた、子どもの言葉に耳を傾けられた、という日が増えていったらいいなと思います。「怒っちゃダメだ」と思うとしんどくなるので、「怒らなくても大丈夫」という環境にしていけたらと思っています。そのために具体的には「怒らなくて大丈夫ルール」を作ることを提案しています。例えば、入浴。「面倒くさい」と言って嫌がったとします。親からすると、衛生面でお風呂に入るのは大切なことだし、一日家で過ごして汗をかいていない日は、お風呂に入らなくていいということにしてみるのです。他にも、金曜日の夜は、家庭学習をしていなくても口出ししないでいいことにする、などです。「ルール」までいかなくても、もちろん構いません。客観的に見たらダメかもしれないし、ちゃんとしてほしいという気持ちがあるけれど、「これはもう怒らなくて大丈夫ってことにしよう」と、完璧を求めないで肩の力を抜けるようにしていけるといいなと思います。「もっと、子どもにきちんと言ったり、叱ったりした方がいいのだろうか」と迷った時、僕は自分の考えを誰かと共有するようにしています。夫や妻、祖父母でもいいし、保育園や小学校、学童の先生、友達など、言いやすい人に話すことで、子育てで大事にしたいことを再確認して共有できるし、視野を広げることにもなると思っています。

子どもが「悪いことをした」と判断すると、僕の心の中で「怒っていい」という感情が湧き起こります。人間のさがとして、どうしても〝懲罰意識〟みたいなものが働くのでしょう。それによって、怒ることを正当化してしまうのです。社会の価値観としても善悪の判断基準は強くあります。例えば、「整理整頓ができない子」「時間を守れない子」＝「悪い子」というふうに捉えられます。逆もしかりで、「それができる子」＝「いい子」と考えられています。以前、学童でこんなことがありました。自由時間に自主的に掃除をしてくれる子がいて、僕は、「いいことをしてくれた」と褒めまくりました。すると、次の日もその次の日も、その子は掃除に精を出したのです。そして気付けば、掃除ばかりして、ほとんど遊んでいませんでした。「褒めてもらうために頑張る」のはダメではありません。けれど、「いい子」であるために犠牲になっているのなら、大人の善悪で判断することを考えなおさなきゃいけないと思ったのです。それ以来、大人から見て「良い行動」を重視するのではなく、〝どんな顔でしているのか〟を見るようにしてみました。思い返せば、自主的に掃除をしてくれた子も、最初は褒められるためではなく、それ自体が楽しくて、イキイキとした表情で掃除をしていたんです。

怒る、褒めるに対して、こういう声かけをすればいいという、たった一つの正解はありません。答えがないから、不安にもなります。悩んだり迷ったりするのは、子どもと真剣に向き合っている証しです。親から見て、正しい道、安全な道に進めるようにしたくなるところを、その子自身が今も未来も幸せを感じられるように、そばで手助けをしていく。そういうふうに考えてみたいと思います。